

第11回

国際日本学コンソーシアム

—はたらく／あそぶ—

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、国際的・学際的なジョイントゼミを行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。このコンソーシアムの開催により21世紀における日本学研究・教育の国際的連携が一層進展し、緊密な協力関係が樹立されるものと確信しています。

第11回となる今回は「はたらく／あそぶ」をテーマに据え、新たな日本学の確立を目指します。

—参加校—

北京外国語大学(北京日本学研究センター、中国)

パリ・デイドロ大学(フランス)

国立台湾大学(台湾)

カレル大学(チェコ)

仁徳大学(韓国)

お茶の水女子大学(日本)

2016年12月12日(月)

11:00～ 開会式

13:00～ 日本文学部会

17:00～ 交流会

(於・大学食堂マルシェ)

2016年12月13日(火)

9:30～ 日本文化部会

(思想・民俗・文化・歴史)

14:00～ 日本語学・日本語教育学部会

17:00～ 全体会

【会場】 お茶の水女子大学

文教育学部1号館1階第1会議室(12月12日)／大学食堂マルシェ(交流会)

／人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟6階大会議室(12月13日)

12日(月) 文教育学部1号館1階第1会議室

11:00~12:00 開会式

《挨拶》古瀬奈津子(本学・比較日本学教育研究センター長)

13:00~15:50 日本文学部会

《挨拶》室伏きみ子(本学・学長)

黄毓倫(本学院生)「詩『小岩井農場』の『自由射手(フライシュッツ)』と

ウェーバーの歌劇『魔弾の射手』—宮沢賢治の『魔界』イメージをめぐる—」

黄馨誼(国立台湾大学院生)「漱石と村上春樹の作品における女主人公の生き方

—『三四郎』の美禰子と『ノルウェイの森』の直子から見て—」

ヴェベル・ミハエル(カレル大学)

「仕事でも遊べる—安岡章太郎とハシク・ヤロスラフの短編小説における皮肉と風刺—」

范淑文(国立台湾大学)「主人公が演じた『働く』という行為

—夏目漱石『門』・村上春樹『スポーツニクの恋人』をめぐる—」

阿南順子(比較日本学教育研究センター客員研究員・ロンドン大学バークベック・カレッジ)

「ネオリベラル日本における女の共同体—やなぎみわのヴィジュアル・アーツ作品を例に—」

17:00 ~19:00 交流会(大学食堂マルシェにて)

13日(火) 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟6階大会議室

9:30~13:10 日本文化部会(思想・民俗・文化・歴史)

潘蕾(北京外国語大学北京日本学研究センター)

「遊戯から芸道への道のり—院政時代の蹴鞠文化に関する一考察—」

大藪海(本学)「『洛中洛外図屏風』に描かれた中世京都の商人と職人」

サイジ・モンテロ ダニエル(パリ・デイドロ大学院生)

「唐土と南蛮の交錯—近世日本の宇宙観を巡って—」

柳澤京子(本学院生)「戦時下の労働者—長州戦争と地域社会—」

ルチエ・モルンシュタイノヴァー(カレル大学院生)

「近代における被差別民の社会的な地位—日本とヨーロッパの簡略比較—」

馬場幸栄(比較日本学教育研究センター研究協力員・国立民族学博物館)

「緯度観測所初代所長・木村栄と水沢宝生会」

ジュリアン・マーティン(パリ・デイドロ大学)「日本における高齢者雇用と人事管理」

14:00~16:40 日本語学・日本語教育学部会

小野舞子(本学院生)「『サントスの御作業』におけるモノナリ文のモダリティ性

—近世語資料との比較対照を中心に—」

曾寶儀(国立台湾大学院生)

「「~さ」派生名詞と「~み」派生名詞に関する一考察—共起表現をめぐる—」

宋恵仙(仁徳大学)「日本語のやりもらいの構造」

陶思含(北京外国語大学北京日本学研究センター院生)

「中国における高校日本語新人教師の不安についての事例研究」

朱桂榮(北京外国語大学北京日本学研究センター)「中国の日本語教育と協働学習」

17:00~17:30 全体会